

令和元年6月4日現在

機関番号：32685

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02322

研究課題名(和文)「日本映像記録センター」の研究 ～眠る映画遺産の発掘～

研究課題名(英文) A Study on "Nippon Eizo Kiroku Center": Revaluation on Films Left in the Closed Archives

研究代表者

奥村 賢 (Okumura, Masaru)

明星大学・デザイン学部・教授

研究者番号：30552583

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは、「日本映像カルチャーセンター」(1972年設立)所蔵の作品コレクションに再び光をあて、貴重な映像遺産の意義をあきらかにしようとするもので、具体的作業としては映像作品の目録化(カタログリング)の完成に力を集中した。この作業では、既存の所蔵情報の誤りを正しながら、将来の映画利用の基盤となるより正確かつ有効な作品目録を実現させた。また、重要度の高いいくつかの作品について音声や字幕の日本語化作業も同時並行で実施し、映画上映のさいに活用できる日本語資料も作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文化遺産の保護はいまや世界の潮流となっているが、問題は山積みで、保護すべき対象なのにいまだ未着手となっているものが数多くある。なかでも映像遺産については、実質的な保存活動はまだ緒に就いたばかりというのが実情だといえよう。長い歳月陰に隠れてしまっていた貴重なフィルムの再評価を試みた本研究は、フィルムの基本データの完成といった学術的意義のみならず、上記のような状況を少しでも改善し、日本の映像文化のさらなる発展に寄与するものになったと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The aim of A Study on "Nippon Eizo Kiroku Center": Revaluation on Films Left in the Closed Archives is to reevaluate film collection owned by "Nippon Eizo Kiroku Center (Japanese Documentary Moving Images Center). Main work was cataloguing film collection, and We have completed the film catalogue which is more correct and available than the former list. Further we have made Japanese translation of voice data and subtitles from some important foreign films for using on screening or researching these films in the future.

研究分野：映画/映像研究

キーワード：映像保存 映像利用 映画保存 映画利用 記録映画 映像記センター 映像カルチャーホール 牛山 純一

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

20世紀は映像文化が地球規模で深く広く浸透していった、まさに映像の時代であった。しかし、隆盛期が過ぎたわけではない。今日の社会の現状をみれば、今世紀も映像の威力や重要性は強まりこそすれ、弱まることはけっしてないだろうことはあきらかである。つまり、映像についてどれだけ深く理解しているか、そしてその映像をどれだけ有効に活用できるかが、人間社会の今後の発展を図るうえでますます重要な鍵となってきたということである。この意味で、過去の映像遺産の発掘、収集、保存、利用は、現代社会にとって、まさにけっして看過すべきではない大きな課題のひとつだといえよう。

日本においては、従来、この役割は東京国立近代美術館フィルムセンターなどの公共のアーカイヴ施設がもっぱら担い、人類がこれまで嘗々と生み出してきた映画遺産などの収集、保存、公開に務めてきた。しかしそれでもなお、いまもって公衆の目にふれることのほとんどない、存在すら忘れさらられている映像作品、映像資料が少なからず存在する。その代表格のひとつが「日本カルチャーセンター」所蔵の映像資料である。

## 2. 研究の目的

本研究は上記のような状況を少しでも改善すべく構想されたものであり、具体的には「日本映像カルチャーセンター」が経済的にきわめて厳しい状況のなかで収集し続けた映像作品の綿密な再検証をとおして、現在においてもなお、これら陰に隠れてしまったフィルムがわが国にとって貴重な映像遺産となっていることをあきらかにし、正当な評価をあたえようとするものである。

## 3. 研究の方法

当該フィルムについて綿密な再検証をおこない、適正な位置づけを段階的におこなっていく。具体的には、まず「日本映像カルチャーセンター」が所蔵している映像作品コレクションが寄託されている川崎市市民ミュージアムの協力を得て、フィルム調査をおこない、ついで目録化(カタログリング)を実現させる。これと並行し、「日本映像カルチャーセンター」の当時の関係者にも取材し、このコレクション全体の性格を明確化していく。寄託フィルム全体の内容が把握された段階で、映像史的観点ならびに映画遺産的観点からこのコレクションの位置づけ作業をおこない、その成果をシンポジウムや論文などで公表する。

## 4. 研究成果

「日本映像カルチャーセンター」所蔵の作品コレクションの目録化(カタログリング)の

完成。同コレクションのうち、重要度の高い作品についての音声や字幕に関する日本語資料の作成。

## 5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

「映像作品コレクションの再検証とその意義」(日本映像学会文献資料研究会)

### 4．発表年

2019年1月19日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号(8桁)：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。